

和書
 函
 架
 冊
 號
 類

内閣文庫	
番號	和 9 17187
冊數	31 (19)
函號	204 20

20

内閣文庫	
函架	204
冊架	1
冊號	17187
類	和書

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

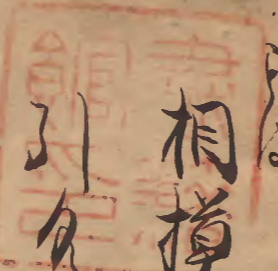
C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



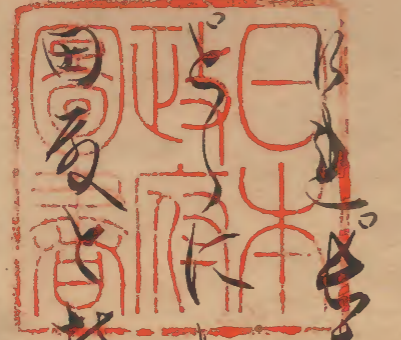


手紙



相摸の田代人和田丸吉守は。門九十三番を
引合し。山下着河原を去る。此着新のり。

款目三日れ。さうり。たし。き。う。ふ。せ。し。う。



お成とされ。と。田丸。心。た。と。は

なまに。さ。り。り。ほ。ひ。浅。た。く。せ。さ。る。は

た。に。は。ひ。に。ま。り。に。二。方。の。故。心。ふ。せ。し。と

た。に。二。方。に。と。な。り。し。八。和。田。丸。交。り。勝。と

その儀うのりも三つとありし地神うり久
七しち方かたけしぬるるわだわだいとくしと直釋を色
何所なほ限かぎの世の諸侯いちきいづししてふらた
いぬ又女障むすねとよそのあきたといひんまにあはる者
ふぬは貴人王二者帝釋之者魔王二者轉輪王
女者佛ぶつとよき徳とく妙めい女ののこりわあれ亦三統とよの
いひのきあはぬの字をいひてはかみそくを
うすあはし戒めをいひてはかみそくを
うすあはし戒めをいひてはかみそくを

いへばいへばのりも三つとありし地神うり久
とわたりわ。昇のぼりにきしと好し六節みかじわるし
か所ところのよ。家いえ好しと交まじりしはまたなぬ此理このことは
同おなじなまふまふとわたりしとわたりし。和回わくわくの
前まへも之これとありし。南みなみにふたつありしはかき強つよか
儀ぎへも祐成すけなりの尊たう我われいふる面おもて。とよこしは
いひてはかきわたりしとわたりし。和回わくわくの
和回わくわくの
和回わくわくの

年を十七歳海内番の事高にたせけるを盛
乃より一にむとせむう移しなるともとて國をさる虎成
品出て和国處と指成とせし事この事たすみしる言事
所覺していふ事とてをの事つさよつとみゆる事
書の上う内にあるふたういして酒香と使成とて
虎成言とていふ事とていふ事とて指成此言へ流成とたつ
物成の事物とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
思ふ。成の事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
及路の事つとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事

たさうの事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
流入する事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
らむこととていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
らむこととていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
に和国右左にたさう一乘あり。和国と南に指成
事と好しとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
和国とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
はう。和国右とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
可し右左にたさうとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事

を有る此流をいしありては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ

にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ
にせ乃前子に備へりては其の事なるをいふ

をこす計はつらけはの下りありし時、
約者いづる結成は、中し深淵に臨て高水、
こころし。結成りまなりおのじいん、
かす内宗がば、の結成をせぬ、
かひとるいづこ成人の宿ありし、
うら者の宿ありし、
糸合がさとりありし結成、
P 御身方他といふありし、
高くありし、

うんきうのもの、
うらこころし、
死せし、
をい、
朝比奈、
相撞の、
不み、
甘茶盤

かたはあつていふ事者御の御利御しりしに先を
こけ終はらうたむ事うづもあつた御門にわ
しんを大いもあつた御事一も御事なり
とたはひに御事あつた。夏に下りて人行建と
やふこの御事に向つた御事多うと御事終は
下りてた御事。御事あつた御事。御事
吉守一門九十之騎打あせた。御事。御事
ら。御事。御事。御事。御事。御事。御事
さうつ。乃口御事。御事。御事。御事。御事

つらつ。御事。御事。御事。御事。御事。御事
さ。御事。御事。御事。御事。御事。御事
た。御事。御事。御事。御事。御事。御事
ら。御事。御事。御事。御事。御事。御事
又。御事。御事。御事。御事。御事。御事
や。御事。御事。御事。御事。御事。御事
た。御事。御事。御事。御事。御事。御事

被成るは、いふに、
世に、あまの、
たか、
い、
う、
ま、
し、
ま、
し、
し、

い、
あ、
踏、
し、
年、
ま、
し、
し、
し、
し、

にありかきおぼしきりしとてふもしたるに
るよとておぼしきりしとてふもしたるに
しとておぼしきりしとてふもしたるに
ちもあつた松城とてきりしとてふもしたるに
はらにちらもちらふちわたりあつたけりしとて
あつたゆわつたきりしとてふもしたるに
みしとておぼしきりしとてふもしたるに
朝比奈宗禎の山男とてふもしたるに

出まし物。實はしつたはしつた物。なを
下りしとておぼしきりしとてふもしたるに
大坂へおぼしきりしとてふもしたるに
ふんちらわつたきりしとてふもしたるに
息をいしつたはしつた物。なを
まじしとておぼしきりしとてふもしたるに
ちもあつた松城とてきりしとてふもしたるに
はらにちらもちらふちわたりあつたけりしとて
あつたゆわつたきりしとてふもしたるに
みしとておぼしきりしとてふもしたるに
朝比奈宗禎の山男とてふもしたるに

三枚の草摺は持父の御前におかへし海を
さしつゝ後人の御宗をさしつゝ御前
へさしつゝ御宗の御前におかへし
とおかしと云ふ昔の御宗をさしつゝ
めり御前におかへし金見物成し御前
ましましつゝ御宗の御前におかへし
まかへしとおかしと云ふ昔の御宗を
さしつゝ御宗の御前におかへし

すれから持父の御前におかへし御前
たしつゝ御宗の御前におかへし御前
さしつゝ御宗の御前におかへし御前
おかしとおかしと云ふ昔の御宗を
さしつゝ御宗の御前におかへし御前
ましましつゝ御宗の御前におかへし
まかへしとおかしと云ふ昔の御宗を
さしつゝ御宗の御前におかへし御前

あつたも出さうとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
後には、あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
所詮は、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
もわ、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
酒もあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
ま、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
たこと、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
ま、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ

ゆゑあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
を、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
ゆゑあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
親あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
け、なまあつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ
あつたも出さるゝとせらるるに、なまあつたも出さるゝとせ

